

者では低かった。非行少年のみに有意差が見られたのは「覚せい剤を使う人」( $\chi^2(4) = 12.51^*$ )に対する意見であり、また、若年犯罪者のみに有意差が見られたのは「暴力団に入る人」( $\chi^2(4) = 11.02^*$ )に対する意見であったが、いずれも、「自分には無関係」であるとする者の構成比が、保護処分歴のない者では高く、少年院送致歴を有する者では低かった。

なお、薬物関連項目について、薬物の使用歴のない者に限ってみると、保護処分歴による有意差が維持されたのは、非行少年における「シンナーを吸う人」( $\chi^2(4) = 13.48^*$ )及び「覚せい剤を使う人」( $\chi^2(4) = 11.58^*$ )であった。同様に、不良集団関連項目について、不良集団関係のない者に限って見ると、保護処分歴による有意差が維持されたのは、若年犯罪者における「暴走族に入る人」( $\chi^2(4) = 16.07^*$ )のみであった。

## 12 心のブレーキ

Q24 もし、あなたが法律で禁じられているような「悪い」ことをしようと思ったとき、あなたを思いとどまらせる心のブレーキになるのは次のどれですか。

次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 1 父母のこと            | 2 兄弟（妻子）を含めた家族全体のこと |
| 3 友達から仲間はずれになること   | 4 学校や職場に対する迷惑のこと    |
| 5 社会から白い目で見られること   | 6 警察につかまること         |
| 7 自分で自分がいやになるから    | 8 その他               |
| 9 特に心のブレーキになるものはない |                     |

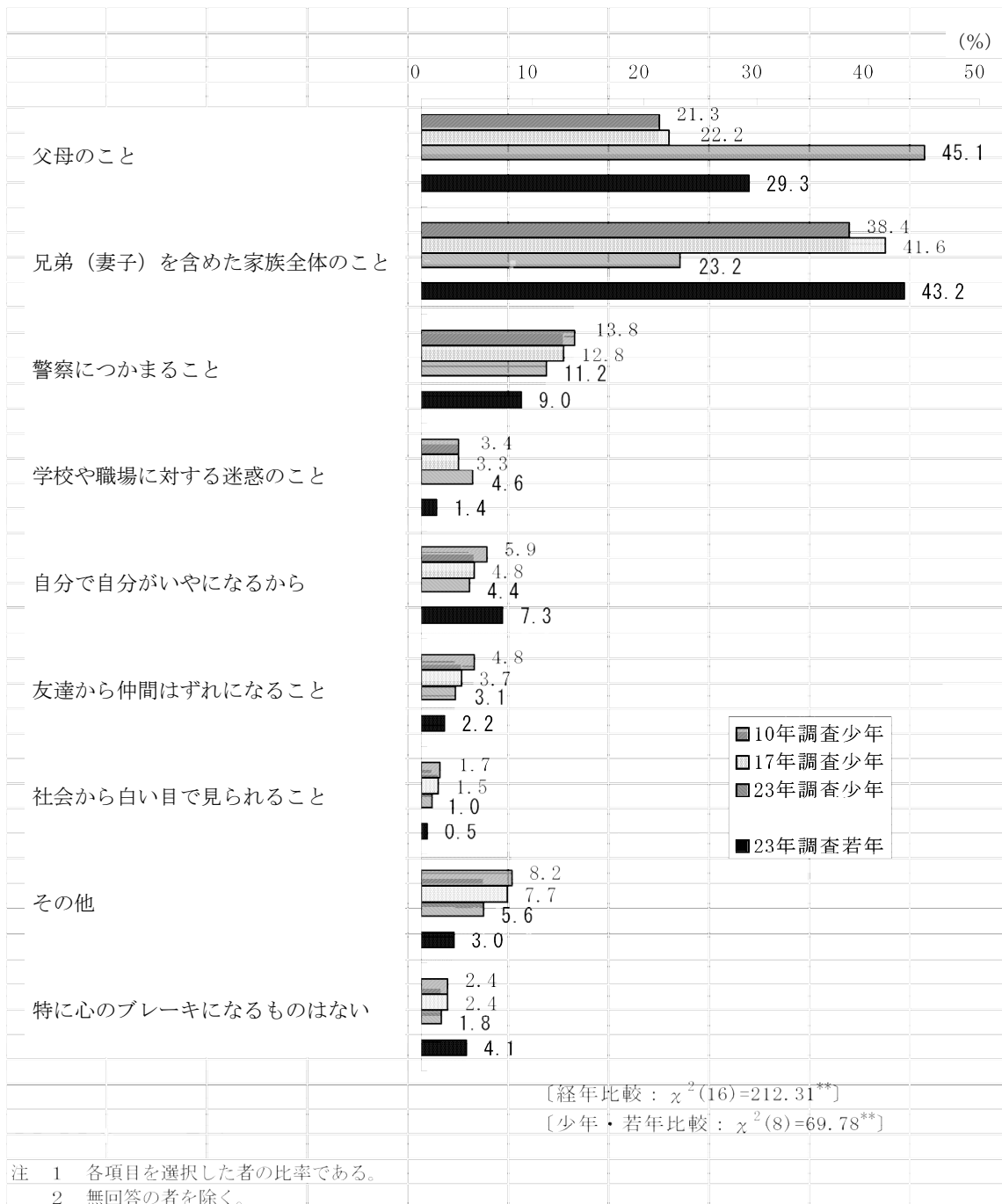
### (1) 経年比較等

この質問は、10年調査から追加された質問であり、2-12-1図は、非行や犯罪をしようとしたときの心のブレーキとなるものとして各項目を選択した者の比率（以下この項において「選択率」という。）を、経年比較したものである。10年調査及び17年調査と比較すると、今回調査では、「父母のこと」を選択した者の比率が高くなっている。ただし、「兄弟（妻子）を含めた家族全体のこと」の選択率が17年調査までと比べて低く、両者を合わせた「家族」として見ると7割弱であって、これまでの調査の6割超と大きくは変わらず、家族が非行や犯罪の心的抑止力として大きな意味を有し続けていることが分かる。

次に、今回調査について、非行少年・若年犯罪者別に見ると、若年犯罪者では、非行少年と異なり、「兄弟（妻子）を含めた家族全体のこと」の選択率が「父母のこと」の選択率より高かった。また、非行少年と比べると、「学校や職場に対する迷惑のこと」を選択する者の比率が低く、「自分で自分がいやになるから」及び「特に心のブレーキになるも

の「はない」の選択率が高いなど、他者との心的つながりが比較的弱いことが推察される。  
 なお、男女別の回答状況には、有意差は見られなかった。

2-12-1 図 心のブレーキ（経年比較等）

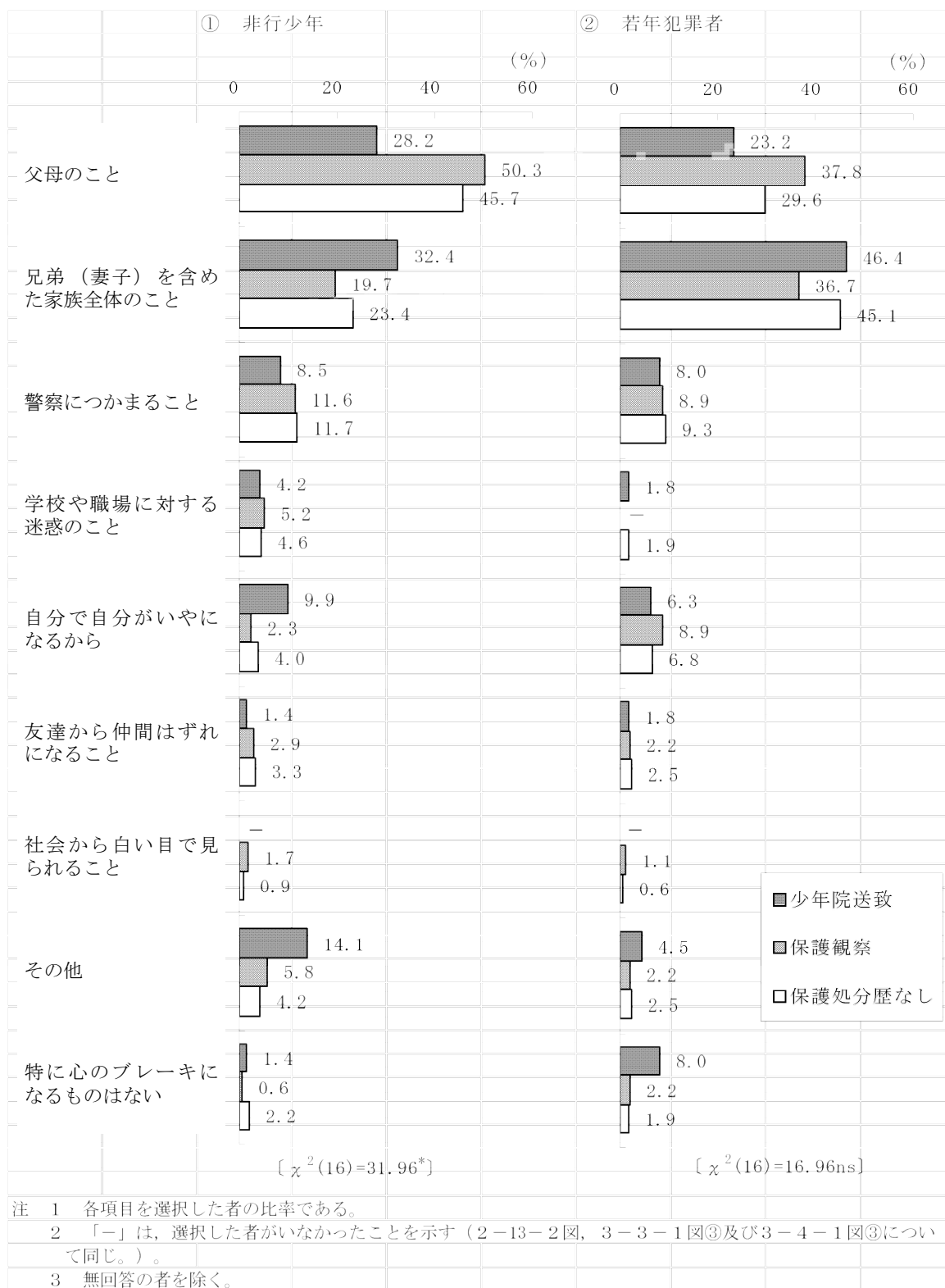


(2) 保護処分歴別の比較

心のブレーキとなるものについて、保護処分歴別に見ると、2-12-2 図のとおりである。若年犯罪者では、保護処分歴別の有意差は見られなかったが、非行少年では、少年院

送致歴を有する者において、「父母のこと」を選択した者の比率が低く、「自分で自分がいやになるから」を選択した者の比率が高かった。

2-12-2図 心のブレーキについての認識（保護処分歴別）



## 13 これからの生活で大切なこと

Q25 これからの生活で、あなたにとって大切と思えるもの3つを選んで、番号を記入してください。

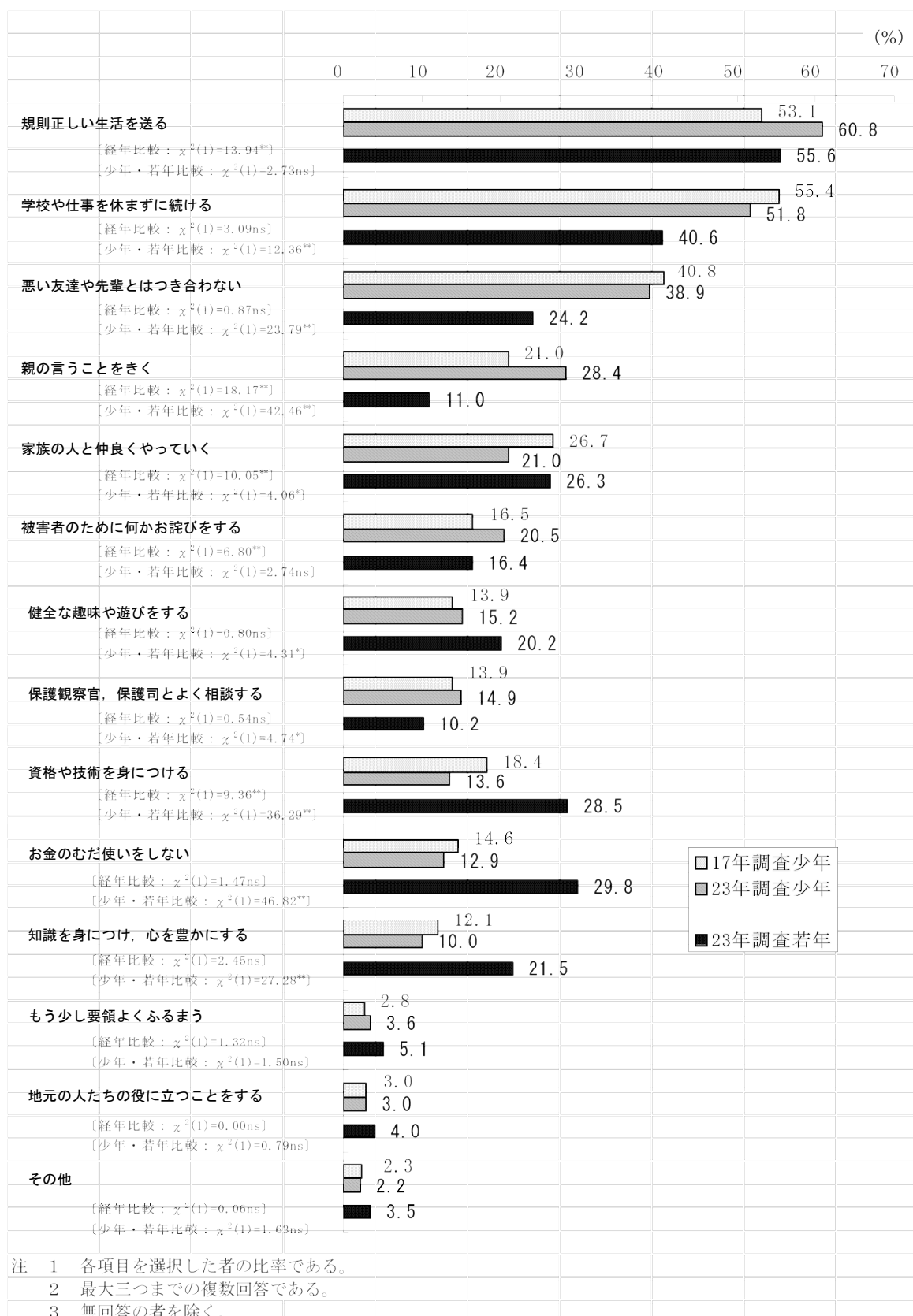
- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 1 規則正しい生活をおくる       | 2 お金のむだ使いをしない       |
| 3 健全な趣味や遊びをする       | 4 学校や仕事を休まずに続ける     |
| 5 資格や技術を身につける       | 6 知識を身につけ心を豊かにする    |
| 7 親の言うことをきく         | 8 家族の人と仲良くやっていく     |
| 9 悪い友達や先輩とはつき合わない   | 10 被害者のために何かお詫びをする  |
| 11 地元の人たちの役にたつことをする | 12 保護観察官・保護司とよく相談する |
| 13 もう少し要領よくふるまう     | 14 その他              |

## (1) 経年比較等

この質問は、17年調査で追加されたものであり、2-13-1図は、これからの生活で大切に思えるものとして各項目を選択した者の比率（以下この項において「選択率」という。）について、17年調査と今回調査の経年比較を行ったものである。選択率の高い項目に大きな変化はないが、前回5位であった「親の言うことをきく」が4位となり、前回4位であった「家族の人と仲良くやっていく」が5位となっている。また、「被害者のために何かお詫びをする」については、選択率が、17年調査よりも有意に高くなっている。

今回調査について、非行少年・若年犯罪者別の回答状況を見ると、非行少年は、若年犯罪者に比して、「学校や仕事を休まずに続ける」や「悪い友達や先輩とはつき合わない」、  
「親の言うことをきく」の選択率が高く、若年犯罪者は、非行少年に比して、「資格や技術を身につける」や「お金のむだ使いをしない」の選択率が高い。これは、非行少年の生活の安定は、生活の基盤である学校や家庭、そして交友関係の影響を大きく受け、若年犯罪者については、非行少年に比して自立の必要性が高いことなどによると思われる。

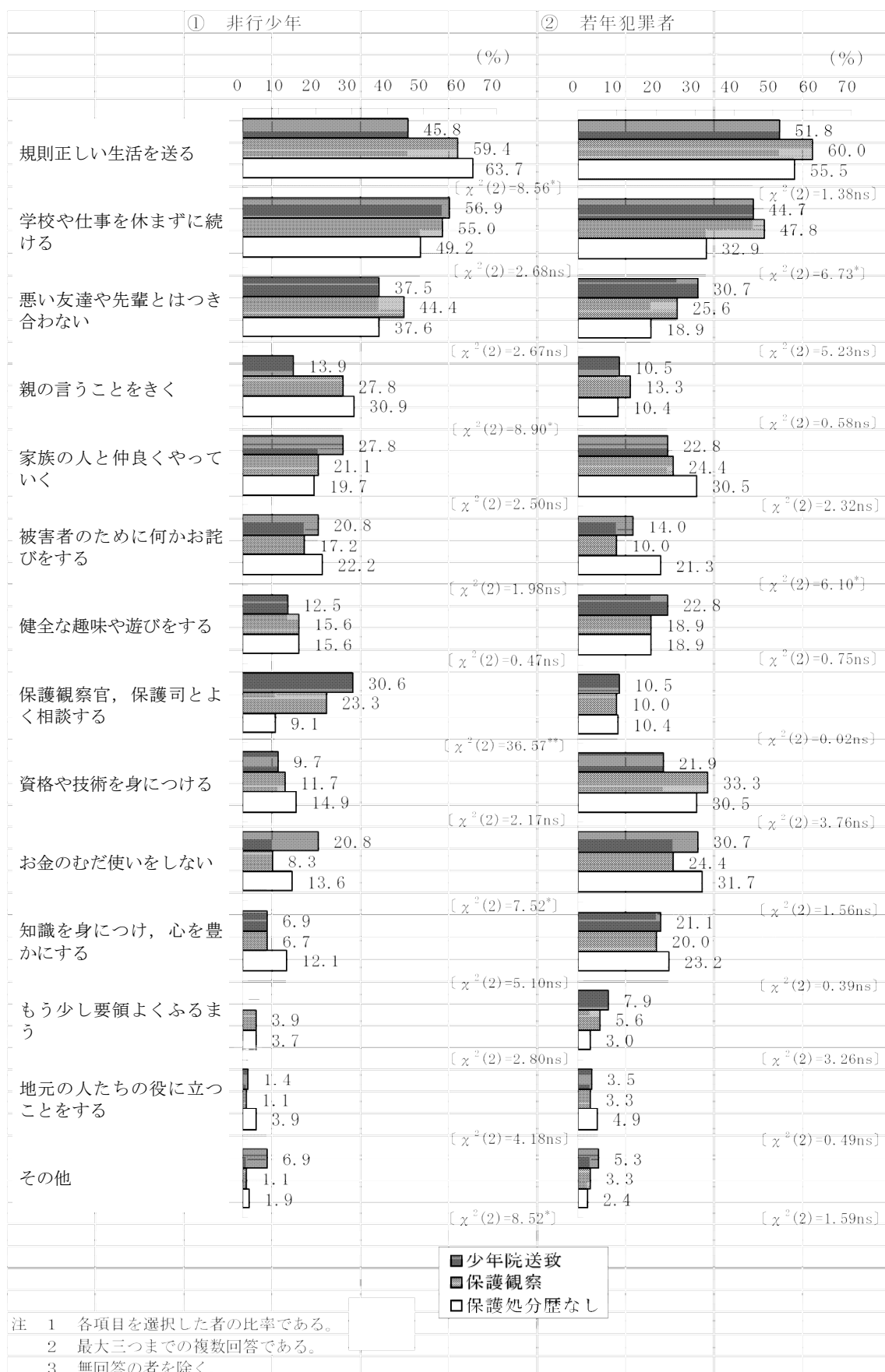
2-13-1 図 これからの生活で大切なこと（経年比較等）



## (2) 保護処分歴別の比較

これからの生活で大切だと思ふことについて、保護処分歴別に見ると、2-13-2図のとおりである。非行少年においては、保護処分歴のない者の方が「規則正しい生活を送る」及び「親の言うことをきく」の選択率が高く、少年院送致歴を有する者の方が「お金のむだ使いをしない」及び「保護観察官、保護司とよく相談する」の選択率が高かった。また、若年犯罪者においては、保護処分歴のない者に比べ、少年院送致歴及び保護観察歴を有する者の方が「学校や仕事を休まずに続ける」を選択した者の比率が高かった。

2-13-2図 これからの生活で大切なこと（保護処分歴別）



## 14 自分の生き方に対する満足度

Q27 あなたは、今の自分の生き方に、どのくらい満足していますか。  
次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

1 満足 2 やや満足 3 どちらとも言えない 4 やや不満 5 不満

## (1) 経年比較等

2-14-1図は、今の自分の生き方にどのくらい満足しているかを経年比較したものである。自分の生き方に対する満足度を「満足」（「満足」及び「やや満足」の合計。以下同じ。）、「どちらとも言えない」、「不満」（「不満」及び「やや不満」の合計。以下同じ。）の3カテゴリーに統合したところ、調査年ごとに数ポイント程度の有意な変動は認められるが、前回調査と比べると構成比に大きな変化は見られなかった。

また、今回調査において、非行少年と若年犯罪者の満足度を比較すると、「満足」と回答した者の構成比は、非行少年の方が若年犯罪者よりも高く、「不満」と回答した者の構成比は、若年犯罪者の方が非行少年に比べて有意に高かった。

なお、非行少年・若年犯罪者別に、男女別の満足度を見ると、有意差はなかった。

2-14-1図 自分の生き方に対する満足度（経年比較等）

	満足	どちらとも言えない	不満
2年調査少年 (2,111)	37.8	31.2	31.0
10年調査少年 (2,238)	34.9	27.3	37.8
17年調査少年 (2,847)	38.7	27.4	33.9
23年調査少年 (725)	35.6	30.6	33.8
[経年比較： $\chi^2(6)=29.33^{**}$ ]			
23年調査若年 (370)	23.5	31.6	44.9
[少年・若年比較： $\chi^2(2)=19.41^{**}$ ]			
注 1 「満足」は、「満足」及び「やや満足」を合計した比率であり、「不満」は、「不満」及び「やや不満」を合計した比率である。			
2 無回答の者を除く。			
3 ( ) 内は、回答者数である。			



## (2) 保護処分歴別の比較

今回調査において、今の自分の生き方に対する満足度を保護処分歴別に見たところ、非行少年、若年犯罪者共に、有意差は見られなかった。

なお、前回調査においては、非行少年について初入・再入別に見ると、初入者の方が、再入者に比して、「満足」と回答した者の構成比が有意に高かったが<sup>4</sup>、今回調査において同様の分析を行ったところ、同構成比は、初入者の方が高い傾向にあったものの（初入者37.2%、再入者31.8%、 $\chi^2(2)=4.16ns$ ）、有意差は見られなかった。

---

4 法務総合研究所（2006）『法務総合研究所研究部報告32 ー最近の非行少年の特質に関する研究ー』（37 - 38頁）